

## ま と め

2年間の活動の中で、私達が意識したことのひとつに、地域資源の活用があります。報告書の中でも、それらを生かしたまちづくりを提案しましたが、この提案を形にするためには、今も、地道にまちづくりの活動を続けている市民と行政が連携をとり、協力して進めていくことが不可欠です。今回の報告書では、そのような自立した市民と行政が共にまちづくりをすることを想定し、私達自身もその一員となり活動することを思い浮かべながら、実現可能な4つの提案をさせていただきました。

実行段階では、提案のひとつである「まちづくり役場」を拠点基地として、提案した内容が実現できればと考えています。もちろん実行段階においては、多くの課題を解決していく必要はありますが、この2年間、立場や考え方の違う14名が、この研究会という組織の中で活動を続けてきたこの実績は、市民と行政が協働で行うまちづくりを推進する上で、何らかの参考になるものと確信しています。

また、小矢部市では、若い世代がまちづくりに対する思いを発言する場がこれまでなかったように思います。以前は、青年団を中心に青年議会が開かれていましたが、今後、まちづくり研究会のような組織が、若い世代の意見を集約し、企画をするための組織として確立され、将来的には何かを創造できる組織に変えていくことも、小矢部市にとっては必要なことと考えています。

若い世代には、将来への時間があります。自分の思うまちづくりを企画し、それを育て形にしていくことは若い市民にしかできません。これからの小矢部市の未来は、このような経験を積み、純粋にまちを思う自立した市民がどれだけいるかにかかっていると考えています。

今後、まちづくり研究会の取り組みを契機として、市民のまちづくりに対する自立意識が高まり、より良いまちづくりを目指した活動の輪が、さらに広がることを心から願っています。

座長 村上 一宏